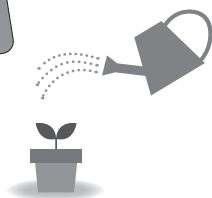


今月の ブックトーク



5月（皐月）「みどりの日」

前田由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭



レイチェル・
カーソン・著
上遠 恵子・訳
川内 倫子・写真
新潮社

新緑が映える季節となりました。5月4日は、みどりの日。皆さんは、ゴールデンウィークに外出することも多いのではありませんか。森林浴もいいですね。そこで、自然を満喫するための心得として、『センス・オブ・ワンダー』を紹介します。それは、『沈黙の春』の著書でも有名なアメリカの生物学者レイチェル・カーソンが幼い甥のロジャーと始めた冒険―自然界への探検のエッセイです。そこで、「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」が人生をどれほど豊かにしてくれるかを気づかせてくれます。空を見上げ、鳥のさえずりを聞き、森林のにおいをかぎ、その土地の食を味わい、木に触れ、自然の鼓動を五感で感じましょう。

ところで、森で偶然うさぎに遭遇するかもしれません。次は、『ピーターラビットのおはなし』です。グズズでおなじみですが、初版の刊行から120年を迎えた2022年に、川上さんの新訳が新たな挿絵を



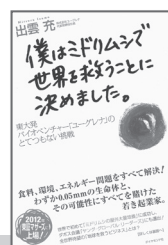
ビートルクス・
ポター・著
川上 未映子・訳
早川書房

収録して出版されました。福音館書店の石井桃子訳と比較して読むのも楽しいです。作者は、イギリスの絵本作家ですが、英国のナショナルトラストという自然保護活動に貢献しました。絵本の舞台となった湖水地方の広大な土地を絵本の印税

で購入し、この活動団体に寄付して現在もみどりが保たれています。

では、日本に転じてみましょう。国が助成金を出している「緑の雇用」制度に担任に勝手に応募されて高卒後むりやり林業の研修生として過疎の山村に送り込まれた若者のお話『神去なあなあ日常』です。手荒い先輩や無茶ぶり仕事、携帯も使えず何もない環境に打ちのめされますが、徐々に奥山の自然の広大さ、美しさに息をのみます。山村の人たちの過酷な自然にも動じない泰然自若さが、「ゆっくりいこう」「まあ落ち着け」を意味する口癖「ななあなあ」につながっていて、なんともどこかで心地よいのです。

最後は、藻の一種でもある植物と動物の間の生き物が主役の『僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。』ベンチャー企業奮闘記です。高校時代に世界の貧困や飢餓をなく



出雲 充・編
ダイヤモンド社

すために国連で働きたいと考えていた著者でしたが、大学1年の時のバングラデシュでの経験から栄養素普及ビジネスで飢餓を救うことを決意します。文系から理系に転部し、試行錯誤の中でミドリムシと出会うことになります。新しいビジネスは大変な苦勞を伴うことを具体的に知ることができそうですが、この事業の価値を信じ、「すべての会社に営業した」というほどの凄まじい情熱が成功への鍵となることを語っています。



三浦 しをん・編
徳間書店

最後のページの Q1

クイズの答え: ② 北里柴三郎

Q2

① 藤原道長

Q3

② 太陽の塔

Q4 生（なま）

（焼かずに作るのでレア（なま）チーズケーキ）

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

